

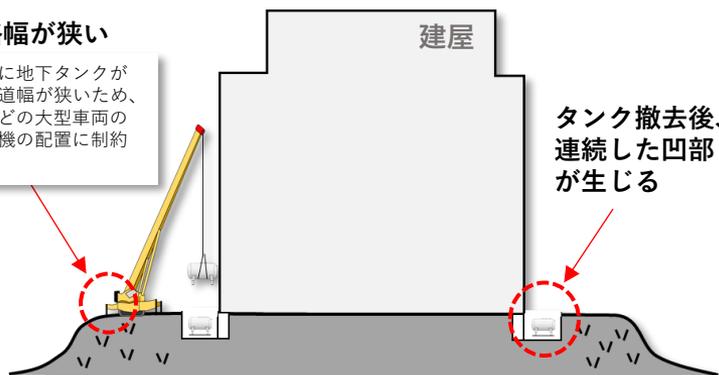
地下タンク撤去時期検討

建築物に先行して
地下タンクをプラント設備
と併せて撤去する場合

<プラント設備解体撤去中>

道路幅が狭い

建屋周囲に地下タンクが存在し、道幅が狭いため、搬出車などの大型車両の通行や重機の配置に制約がある。

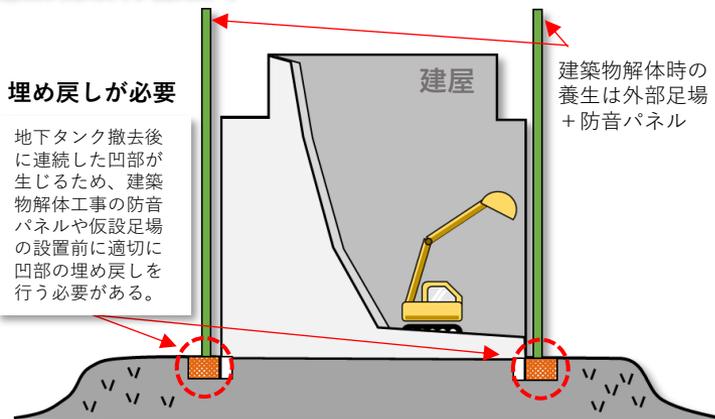


タンク撤去後、
連続した凹部
が生じる

<建築物解体撤去中>

埋め戻しが必要

地下タンク撤去後に連続した凹部が生じるため、建築物解体工事の防音パネルや仮設足場の設置前に適切に凹部の埋め戻しを行う必要がある。

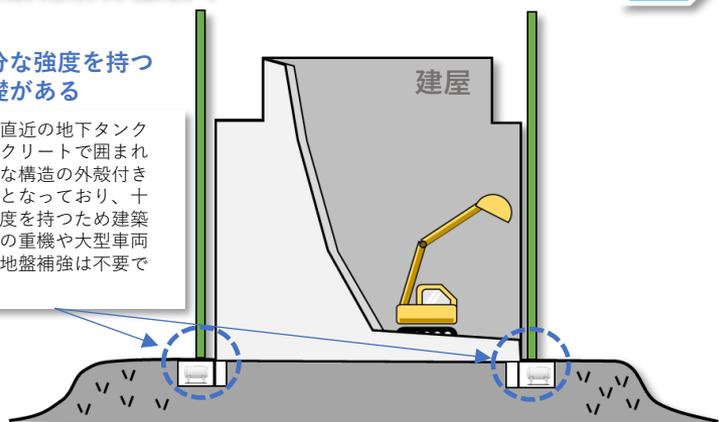


建築物解体時の
養生は外部足場
+ 防音パネル

<建築物解体撤去中>

十分な強度を持つ 基礎がある

建築物直近の地下タンクはコンクリートで囲まれた堅牢な構造の外殻付きタンクとなっており、十分な強度を持つため建築物解体の重機や大型車両対応の地盤補強は不要である。



<建築物解体撤去後地下タンク撤去>

建築物の解体撤去後にタンク上部のコンクリート部分を撤去しタンクを取り出す。その後壁と基礎部のコンクリート部分を撤去する。建築物の解体と地下タンクの解体が連続してスムーズに実施することができることとなる。



- ・ 堅固な耐圧盤状での搬出作業
- ・ 重機、搬出車の動線確保が容易

地下タンクを建築物と併せて
撤去する場合

結論

従って、建築物解体（建屋上屋）後に地下タンクを撤去の方がより安全かつ効率的に解体撤去を行うことができる。

鋼製地下タンク写真



①
タンクを収納している鋼製の箱を
クレーンにて積み下ろし中



②
左記写真の鋼製の箱をコンクリート製
地下ピット内に設置したところ

